

スーパーグローバルの採択校におけるグローバル化施策とその数量的把握について

茨城大学 大学戦略・IR 室
准教授 鳥田 敏行

藤原：鳥田先生のお話は、では、こういう国際化の取り組みを進めていく上で、われわれとしては本当にそれがどういう指標を立ててこのことを進めていく可能性があるのかという、その辺りのお話をいただくこととなります。では、鳥田先生、よろしくお願いします。

※本報告では、本文中にグラフを入れると判読しにくいいため、グラフの PDF をご用意の上、ご覧ください。

鳥田：それでは、『スーパーグローバルの採択校におけるグローバル化施策とその数量的把握について』ってということですが、当初、この指標をとりあえずまとめていって、実際、各大学で何が行われているのか政策的なものをまとめてみようと思ったのですが、途中でくじけてやめました。構想調書がアップされているのはいいのですが、全部プロテクトかかっています...。ですので、数字に関してのみ転記して、データ集を作りました。これからみなさんにディスカッションしていただく中で、使っていただければなと思って作った感じです。世間相場がどのくらいの感じなのかを見ていこうかなって感じなんです。

[スライド 3：1. 国際化関連（1）多様性 ①教員に占める外国人及び外国の大学で学位を取得した専任教員等の割合]

グラフですが、縦軸は全部パーセンテージになっています。全部比率です。横軸は大学名を掲載させていただいております。マークですが、無印の所はタイプ A の国立、ひし形がタイプ A の私立、白い丸がタイプ B の国立、四角がタイプ B の公立大学、四角のひし形がタイプ B の私立大学です。グラフの折れ線は共通して、平成 25 年度、これは今は現在の状況ですが青い線で引いてあります。28 年度までにはどのくらいか、ここからは目標値になります（赤）。それで、31 年度までどうしたらいいのか（緑）、最終的に 35 年度、要するに 10 年後にこうなっていたい（紫）というのを示しています。ですので、伸び率が高い、志が高い大学さんと、ほとんど変化ないですよみたいな大学さん。もっとも高いの維持するっていうのも当然重要です。そんな感じで見ただけであればと思います。

ICU、国際教養、APU とグローバル教育に特化した大学は高いですね。これは外国人の比率ですが、外国で学位取得した日本人でもよいし、1 年以上教育研究を向こうでやった人でもいいですよみたいな話になります。これらの大学は少々別格なので、普通の所はどの辺なのっていうと、やっぱ 50% から 60% です。中堅どころは私立大学さんが多いかもしれません。旧帝大さんあたりは、その辺の所はどっしり構えてるっています。

[スライド 4：1. 国際化関連（1）多様性 ②職員に占める外国人及び外国の大学で学位

を取得した専任職員等の割合]

これが職員の比率です。そんなに外国人の職員を増やしても本当に大丈夫なのかか思のですが、やっぱり国際教養、APU、この辺非常に多いですね。大概の大学は現在 10 パーセント程度でしょうか。ただ将来的に我が母校の金沢大学は 3 割まで増やしたいとか書いてあります。

[スライド 5 : 1. 国際化関連 (1) 多様性 ③教職員に占める女性の比率 (教員)]

まず教員です。多い所で 40% ぐらいです。低い所、例えば工学単科系さんですと、やはり低くなってしまって 10% ぐらいになります。目標値としては、それらをちょっと上乘せたいぐらいのところになっています。

[スライド 6 : 1. 国際化関連 (1) 多様性 ③教職員に占める女性の比率 (職員)]

職員に占める女性比率は、まさにあんまり皆さん野心的には考えてないのようですね。

[スライド 7 : 1. 国際化関連 (1) 多様性④全学生に占める外国人留学生の割合 (通年)]

こちらが全学生に占める外国人留学生の割合です。グローバル特化型の大学除くと、大体 2 割より下というのが普通でしょうか。タイプ B の私学さんは、割と現在の値はそんなに高くないような状況で来てるみたいです。

[スライド 8 : 1. 国際化関連 (2) 流動性①日本人学生に占める留学経験者の割合 (学士課程)]

日本人学生に占める留学経験者の割合です。要するに学士課程で日本人をよそへ送り出したいわけですけども、留学経験ですが、正規学生で単位取得がある留学で期間は問わないです。見てくと、10 年後には 100 パーセントの学生が留学経験させたい大学さんもいらっしゃいますが、学士課程なので 1 割から 2 割が大体の世間相場かなという感じですね。

[スライド 9 : 1. 国際化関連 (2) 流動性①日本人学生に占める留学経験者の割合 (大学院課程)]

大学院に関しても、一部、かなりの高割合を目指している大学さんはありますが、だいたい多くても 2 割から 1 割ぐらい向こうに留学させられればいだろう、みたいな雰囲気が出てる感じ。ちなみに院生このデータは正規学生で単位取得がある留学です。スライド 10 は 3 ヶ月以上の研究派遣で単位の取得は関係ないです。

[スライド 11 : 1. 国際化関連 (2) 流動性 ②大学間協定に基づく交流数 (派遣)]

大学間協定に基づく交流数なんかも、ざっと見ていきますとかなり強気の攻めの数字を挙げていらっしゃる所も多いです。そのような意欲的な目標を掲げる大学さんもいらっしゃいますが、概ね 10 パーセント弱ぐらいの学生を派遣したい、というのが相場ですね。

[スライド 12 : 1. 国際化関連 (2) 流動性 ②大学間協定に基づく交流数 (受入)]

こちらは受入ですが、受入もやっぱり数パーセントしか受け入れてないです。大学間協定自体も増やしていくのでしょうね。

[スライド13：1. 国際化関連（4）語学力関係 ①外国語による授業科目数・割合（学士課程）]

次は外国語による授業ですが、これがネックになっている感じですね。外国語による授業を要するに何パーセントにするのかっていう話です。国際教養大とか 100%とか、さすがですね。普通の大学さんはだいたい 1 割。これは学士課程ですからね。伸び率が高い大学さんもあります。ここは結構その大学の意欲が伺える指標ですね。

[スライド14：1. 国際化関連（4）語学力関係 ①外国語による授業科目数・割合（大学院）]

大学院に関しては、学部よりも結構意欲的な大学さんが増えます。広島大学さんはもう 8 割超え、金沢大学もやっぱり 9 割の授業を英語でやろう、みたいな感じですね。だいたい相場的には、でも学士課程と比べると、やっぱり全体的に大学院のほうが英語でやる授業が多いな、という感じはします。やっぱり大学院に関しては結構少人数だしやりやすいついていうところもあるのかなとも思います。

[スライド15：1. 国際化関連（4）語学力関係 ②外国語のみで卒業できるコースの数等（学士課程）]

これが外国語のみで卒業できるコースの数なんですけど、これは分母が学部学生、分子が英語だけで卒業できるコースに在籍してる学生です。創価大学さんは 60 数パーセントの学生がそういうような英語だけで卒業できるコースに在籍させたいみたいですね。あとの大学さんはあんまり学士課程に関しては、それほど英語のみで卒業できるコースはそんなに増やす気はないような雰囲気です。

[スライド16：1. 国際化関連（4）語学力関係 ②外国語のみで卒業できるコースの数等（大学院課程）]

ただ大学院に関しては、もうこの辺の会津大、国際大、APU、東工大、NAIST っていうのは奈良先端ですね、国際教養、広島、この辺りは結構、英語だけで卒業できるコースを 100 パーつくっちゃいましょうみたいな感じで、結構頑張っています。芝工大さんも。京都工芸繊維大学さんも結構、8 割つくっちゃうみたいです。

[スライド17：1. 国際化関連（4）語学力関係 ④学生の語学レベルの測定・把握、向上のための取組（学士課程）]

語学力ですが、みなさん TOEFL-iBT で、だいたいみなさん示しますで、他のことで示してる大学さんも含め、無理やり換算してるんですけども、大体 80 点ぐらいを狙ってるっていう大学さんが大半でした。80 点っていうと、だから TOEIC で 730 点ぐらい。そうすると、730 あったら結構授業って聞ける感じですか。

小湊：うん？

寫田：730 点ってどんな感じですか。

小湊：聞けると思うけど、本当に理解が進むかどうかは全く別問題。授業は普通の日常会話と違うので、テクニカルタームをちゃんと理解して、その上で、しっかりとした思考が働くかということですよ。そのため、日頃そういう経験がない中で、いきなり授業で英語でや

ることの難しさというのは、さっき説明の中でも指摘させてもらいました。

寫田：そのぐらいを狙ってる大学さんが多いんですけど、それが本当にそれで国際人なのか？みたいなどころになると、またちょっと別だろうみたいなどころがある感じですかね。

[スライド21：1. 国際化関連(6)大学の国際開放度 ⑤混住型学生宿舎の有無(留学生)]

寫田：混住型の学生宿舎、混住型ってどういう感じなんですか。要するに・・・。

小林：日本人と留学生を同じ寮かつ同じフロアに住ませるということです。住居費を低予算で1年、特に、留学生は入学直後1年間寮に入れて、日本人も同居させ、共同生活を行うものです。APUさんは設立当初は、留学生全員が4年間入居可能でした。近年は、留学生でも、寮であるAPハウスに1年間居住後、地域社会へ溶け込ませるシステムになっています。

寫田：それは同じ部屋ですか？

小林：リビングルームとして共通の場で食事やそのほか同じフロアの者が色々なことをする。居室は、1人部屋が主流ですが、は2人部屋の例もありますね。。ちなみにこの会場の一番上の階に留学生女子用寮あるんですけど、完全なワンルーム型です。そのワンルーム型が今、国立大日本人学生でも主流です。しかし、いま流行りものはいわゆるシェアハウス型です。

寫田：結構大変ですよ、住んでる学生としては。

小林：大変です。

寫田：外国人と一緒に住むって。

小林：大変です。

小湊：うちの大学でもやってるけど、学生に話を聞くと、何とかなじむって言っています。。多分そういうことを情報として提供して、それに応募してくる学生が一定数いると思います。

寫田：覚悟の上で住んでる日本人学生。

小湊：そう。だから、実質、空室率は高い。

[スライド22：1. 国際化関連(6)大学の国際開放度 ⑤混住型学生宿舎の有無(日本人学生)]

寫田：次のグラフで日本人のパーセンテージ見ると、各大学、現在数パーセントしか日本人は住んでなくて、将来的にも数パーセントでいきたいっていうか、多分いかないだろうっていう感じなのかな。

小林：日本人学生の役割は、いわゆるチューターとか、そのユニットのリーダー的な人になります。国立大は、典型的にこの方式です。改めて今回数値で見るとAPUさんでも少ないですね。日本人学生達は、日本文化・習慣、例えばごみの仕分け方法か、細々としたことを指導することが期待されています。日本人学生にとって留学生・異文化交流というメリットもあるけど、本気で住みたいんですけどというのは国立大学ではまだ少ないと感じます。特に、建物要求時点での比率で混住ってやると、留学生のほうで比率を増やす傾向があるので、こういうグラフになるのかと思います。

寫田：本当、こういう所に日本人住ませれば、なんか結局、そういう環境、度胸が結構つくんじゃないのかなって感じもするんですけど、行かないんでしょうね、最近の学生は。

[スライド24：2. ガバナンス改革関連（1）人事システム ①年俸制の導入（教員）]

この辺から人事システムで、なぜ年俸制の導入がグローバル化とつながってるのか、とは思いましたが、流動性の確保につながりますからね。

[スライド25：2. ガバナンス改革関連（1）人事システム ①年俸制の導入（職員）]

[スライド26：2. ガバナンス改革関連（1）人事システム ②テニユアトラック制の導入]

年俸制の話、職員も年俸制入れちゃうぞみたいな話です。テニユア・トラックもやっちゃうぞみたいな話です。

[スライド27：2. ガバナンス改革関連（2）ガバナンス ①事務職員の高度化への取組]

職員の高度化みたいな項目もあるんですけど、このグラフの見方としては、例えば国際大学だったら700点が狙ってるポイントで、700点の人を現在80パーセントだけど最終的に100パーセントにしたいですみたいな感じですか。例えば金沢大学ですと600点を目標で、現在十数パーセントだけど、10年後には600点を持つてる人が70パーセントを超えるような感じですか。

そんなわけで、今ちょっとざっくり見てきましたけど、大体こんな感じのところ为主要指標としてスーパーグローバルの調書に出てきました。またこの後、グループ討論のときにも、ご覧いただきまして世間相場を踏まえてご議論いただければと思っております。すいません、駆け足でしたけども、以上でございます。